

発刊のことば

現在、我が国では、煙突や排水口から未処理の煙や工場排水が排出されて起こる公害問題は影をひそめ、大気汚染や水質汚濁が大きな話題になることが少なくなりました。しかしながら、地域的には未だ解決されていない環境汚染もあり、また、目で見、肌で感じることのできない環境問題、たとえば微量化学物質による汚染や温暖化のような地球環境問題などが次々と指摘されております。

このような環境問題には、大量生産・大量消費・大量廃棄という言葉で象徴されている私たちの日常生活が深く関わっています。環境問題を解決し、さらに環境を保全するためには、国や地方自治体による施策が重要な役割を果たすものですが、私たちの環境へ配慮した行動もまた大きな力となります。そのためには、まず地域の環境に関心を持つことが重要です。

地域の環境は、その地域の地形、気候、文化、人の活動などが密接に関わり合い、歴史的な経緯を経て形成されております。したがって、地域の環境に関心を持つためには、その地域におけるこれらの諸要素を踏まえた環境の理解が必要となります。

本書は、このような背景の下に、埼玉県環境科学国際センターが分野ごとに埼玉県の環境を鳥瞰図的に整理したものであります。具体的には、大気環境、水環境、廃棄物管理、化学物質、地質地盤環境、自然環境の六つの分野について、変遷、対策、現状、課題等の他、当センターでの取組を解説しております。

埼玉県環境科学国際センターは平成12年4月に発足しましたが、その前身である旧埼玉県公害センター（昭和45年10月設立）の活動を引き継ぎながら、環境の把握、環境問題の解決さらには環境の創造に向けて試験研究を行っています。この間、環境質のモニタリングや環境に係る調査・研究等を通して、様々な情報・データや経験が蓄積されました。本書は、これらを基にして、研究者全員の参加の下で作成しました。なお、記載の内容は、年次報告書である埼玉県環境科学国際センター報の平成15～17年度版に順次掲載したものを基本にしております。

本書は、多くの方々に埼玉県の環境を理解していただくことのほか、昨今理科離れが進んでいるとされる若い世代の方々に自然科学の役割に関心を持ってもらうこと、また、環境行政に携わっておられるの方々にその重要性を再認識してもらうことなども目的と考えております。毎年公表されています埼玉県環境白書と合わせてご活用していただければと思います。

最後になりますが、今後とも埼玉県環境科学国際センターの諸活動にご理解・ご支援を賜りますよう、お願いいたします。

平成19年3月

埼玉県環境科学国際センター
総長 須藤 隆一